

緊迫、均衡状態からの 7 回の猛攻により日本が韓国を圧倒しつつある。決勝進出は間違いなかろう。まずは決勝進出おめでとう。これで日本国民も少しは溜飲を下げたことだろう。彼の国があからさまな敵愾心を見せ付けなければ、日本国民もここまで思うことはなかったろうにと思わずには居れない。不信や猜疑心の悪循環に日韓両国、勿論中国とも陥りつつあるのではなかろうか。悲しむべき事である。お互いにとりより彼等に冷静になって貰いたいものだ。国内事情があつてそれを許さないのかもしれないが・・・

さて、小生が住んでいる野火止台上は関東の古刹平林寺もあり、古来より開けた所である。その証左として先般の折々の記 66：六臂三眼の憤怒相で紹介したとおり台上への入り口に庚申塔が配されていた。朝霞の黒目川沿いの低地から畑中地区への上り坂の川越街道にあったのであるが、多分同様の考えで志木保谷道路から畑中台上への上り坂を調べてみた。先ず、バス停留所「東福寺前」から台上方向に畑の横に如何にも道祖神と言うか庚申塔のようなものがある。毎朝のバス停までの経路であり、気にはなっていたが、思い立って調べてみたが、残念ながら石の表面が磨耗して文字も絵も全く判読できない。

その位置よりは西東京寄りにも石囲いされた塔らしきものがあつたことを思い出しそちらに向つた。それが、写真の庚申供養塔である。「供養塔」の文字の上には立派な六臂三眼の青面金剛像が刻まれており、間違いなく庚申塔であり、下段に「武蔵国 新座郡 下片山 村民等 謹建」とあり、横面に「風調雨順 文化元年甲子秋」、他面には、国奉民安 九月吉辰」とある。



国泰民安、風調雨順とは、国や民が泰平であり安心して暮らすことができるようにとの意であろう。風調雨順とは風雨が順調であつて五穀豊穡を希求すると言う意味であろう。国泰民安を見ると彼の家康が因縁をつけたといわれる「国家安康」を思い出さずには居れない。何故か東京には徳川家康の銅像がない。楠木正成、和氣清麻呂、西郷隆盛、一時的には賊軍でもあつた勝海舟や榎本武揚の像はあるらしいのだが（勝と榎本像はまだお目にかかつては居ないが・・・）、不思議なものだ。江戸城を築城した大田道灌像は 3 箇所もあるらしい。

閑話休題

「風調雨順」は日本ではあまり使われていないのかもしれないが、中国のお祭では度々お目に掛かるもの様だ。